

1 組織の使命（どのような役割を担うのか）

社会が急速に変化し、子どもたちの抱える課題が複雑化・多様化する中、子ども一人ひとり、ひいては社会のウェルビーイングを実現するため、北九州市では、「こどもまんなか」で質の高い教育環境の充実を図っていく。具体的には、教育大綱で定めた5つの柱に基づいて、個性・多様性を尊重し、子どもたちが持っている可能性を発揮していける教育を推進する。

- ① 全ての子どもにとって「居心地のよい学校」をつくる
- ② 子どもが失敗を恐れず挑戦し、志と人間力を高められる環境をつくる
- ③ 誰一人取り残さない学びと、未来を見据えた先端的な学びを進める
- ④ 自律的で特色ある学校づくりを進め、教職員のウェルビーイングを高める
- ⑤ 地域とのつながりの中で、社会全体で子どもを見守り支え、育てる

2 基本情報

(1) 令和8年度局全体当初予算額

一般会計 762億円（うち一般財源 576億円）

(2) 組織(部名) (R8.4.1付)

北九州市教育委員会

(3) 所管の政策連携団体

公益財団法人 北九州市学校給食協会

(4) 所管の主な公共施設(運営方法:直営、指定管理、その他)

直営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中央図書館 ・ 北九州市立高等学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども図書館 ・ 北九州市立教育センター 	
指定管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 門司図書館 ・ 八幡図書館 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小倉南図書館 ・ 戸畑図書館 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若松図書館

3 令和7年度局区X方針の振り返り

○全体の振り返り(総評)

令和7年度は、「北九州市こどもまんなか教育プラン」に基づき、業務改善や教育環境の整備、不登校対策の強化など、多岐にわたる課題解決に計画的に取り組んだ。設定した多くの課題が令和7年度の取組内容を完了し、当初の目的を概ね達成できた。

学校体育館への空調整備は、実施設計費を計上し設置に着手した。また、「北九州市みらい政策委員会」において、子どもたちの設置に対する要望を受け止め、令和12年度までに、すべての学校へ設置する方針を定めるなど、中長期的な課題においても着実に進捗している。また、その実現に向け、設計と施工を一括で発注するデザインビルド方式も採用することで、より迅速な設置計画を立案した。

今後も、令和7年度に得られた知見、新たな視点を踏まえながら、「こどもまんなか」で質の高い教育環境の充実につながる取組みを進めていく。

○変革が実現した課題・取組内容・市民にもたらされた効果

・教職員の負担軽減に向けた業務の見直しと環境整備

「学校における業務改善プログラム(第4版)」を改定するとともに、自動通話録音電話設備の設置予算を確保した。これにより、改定プログラムの全校周知と電話設備の整備・運用が令和8年度中に進み、教職員の事務負担を大幅に軽減し、児童生徒と向き合う本質的な教育活動に集中できる時間の増加が見込まれる。

・学びの多様化学校開校による不登校対策の更なる充実

令和9年度の学びの多様化学校開校に向け、「北九州市立『学びの多様化学校』基本計画」の策定および既存施設の改修工事の基本・実施設計を完了させ、不登校児童生徒への新たな学びの選択肢提供と、きめ細やかな教育機会確保に向けた具体的な基盤を確立することができた。

○取組・進捗が十分でなかった項目・内容(理由)・令和8年度に向けた考え

-

教育委員会 X方針 課題一覧

課題領域 A

政策分野	課題名	課題に対する取り組み
教育環境 (ソフト)	教職の魅力発信	(1)せんせいスタートプロジェクト 教職員の出身高校に出向き、教職の魅力やキャリアプラン等、対話的な活動を通し、教員免許が取得可能な大学への進学を促す。 (2)kitaQみらい塾 大学に出向き、出前講座にて対話やグループワークを通し、教職の魅力を伝える。また、「先生が安心して働ける北九州市」を広く発信する。
教育環境 (ソフト)	AI型学習アプリの導入による「個別最適な学び」の推進	(1)「北九州市AI型学習アプリ活用アクションプラン」の作成・普及と、学校への伴走型支援の実施。AI型学習アプリの活用効果検証を行う。
教育環境 (ソフト)	子ども読書活動の推進	(1)「学校まるごと図書館」の推進 「学校全体が図書館」と捉え、学校生活において、自然に本と出会える環境づくりを行う。 (2)子ども図書館での体験型イベントの展開 「エンタメ要素」を最大限に盛り込んだ体験型イベントを展開し、図書館を「子ども・多世代エンターテインメント拠点」として機能させる。

課題領域 B

政策分野	課題名	課題に対する取り組み
教育環境 (ソフト・ハード)	地域クラブ活動の推進	(1)地域クラブ活動の推進に向けた取組の進化 教育委員会内にPTを設置するとともに、関係者から意見を得る機会を拡充する等により、地域クラブ活動を一層広げていく上での課題を整理し、個々の取組をアップデートする。
教育環境 (ソフト・ハード)	持続的な給食提供体制のあり方	(1)現状分析を踏まえた給食提供体制の検討 北九州市の給食提供の現状(情報)や、他自治体の提供体制を踏まえ、今後の給食提供体制について様々な方策を検討、論点を整理する。

課題領域 C

政策分野	課題名	課題に対する取り組み
局全体	新たな時代の教育デザイン	(1)市立小中学校における実践例や他都市事例の収集・分析を行う。 また、学校・保護者・地域はもとより、高校・高専・大学・産業界などの関係者とも幅広く意見交換を行うことで、小中一貫校の整備及び新たな教育モデルについて、方向性を具体化する。

【凡例】

○課題領域

A ・行政サービス現場改善にかかる課題

B ・課題の掘り起こしが済み、変革の実行段階にあるもの

・課題の掘り起こしを更に進め、実行段階へ繋げていくもの

C ・将来を見据えて、今から着手しなければならない課題

課題A (1) 教職の魅力発信【政策分野：教育環境（ソフト）】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス【インパクト：高】【緊急度：高】

②課題の内容

教員の魅力とは、子どもの将来や人生の指針など人格形成に関わることで、子どもの成長や教師自身の成長を実感できる点にあり、それを積み重ねることで教員としての喜びを感じられるものである。また、現在教育委員会では「先生を一人にしない」取組や業務改善プログラム第4版の実施を通して、教職員のウェルビーイング向上を図っているところである。これらの活動を広報していくことで、教員の魅力を発信し、人材確保につなげていく。

③課題の背景や現状

教員の長時間労働や生徒指導・保護者対応などの難しさ、学校教育への多種多様なニーズなど、職業としての教員の厳しさがクローズアップされ、近年の教員離れや人材不足につながっていると言われている。大学進学前の早い段階から、教職のすばらしさ、魅力などを発信するとともに、一般社会にも広く広報し、人材確保につなげる必要がある。

④目指す成果 - 市民にとって何がどう変わるのか(サービスの質や価値、市民の実感) -

本市の教職に対する前向きなイメージを浸透させ、北九州市で教員になる魅力を実感できるように、説明会などの機会を大学生だけでなく高校生まで広げ、教員養成課程のある大学への進学や新規採用者の獲得を図る。また、社会一般にも広く発信し、教職のイメージアップを図り、関心を高め、新たな人材の確保を行い、教員が安心して教育活動に専念できる環境を整える。そのことによって、子ども一人一人に寄り添った質の高い教育を提供することができる。

⑤令和8年度取組内容(四半期間隔)

(1)せんせいスタートプロジェクト(高校生対象)

現在北九州市で勤めている教職員の出身校のうち、高校10校程度を対象に、指導主事等が、教職の魅力や教員になるまでのキャリアプラン等を説明する。高校生からの質問に答えるなどして、対話的な活動を通して、効果的に教職の魅力を伝えることにより、教員養成課程あるいは教員免許が取得可能な大学への進学を促す。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
・案内(済) ・連絡調整	・高校訪問	・高校訪問	・来年度の準備

(2)kitaQみらい塾(大学生対象)

教育実習協議会加盟大学24大学のうち、希望する大学に指導主事等が出向き、学生に対して、出前講座を行う。また、対話やグループワークを通してより実践的な活動を行い、教員になることを目指す学生の増加につなげる。大学では2回の講座を行い、北九州市の教員の魅力をより丁寧に伝えていく。取組については、各種メディアを通じて「先生が安心して働ける北九州市」を広報し、幅広い人材確保につなげていく。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
・案内(済) ・連絡調整	・第1回講座(訪問)	・第2回講座(訪問)	・来年度の準備

課題A (2) AI型学習アプリの導入による「個別最適な学び」の推進 【政策分野：教育環境（ソフト）】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス 【インパクト:高】 【緊急度:高】

②課題の内容

・本市では、子どもの学力向上について、これまでも様々な施策を講じてきたところだが、一つの指標となる「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査(国語、算数・数学、理科※、英語※)では、平均正答率が全国平均を下回る状況が続いている。※理科、英語は3年に1回実施。
・「全国学力・学習状況調査」の誤答分析の結果から、中高位層の子どもが「比較的容易だったと考えられる問題」でつまづく傾向が見られた。

③課題の背景や現状

全国学力・学習状況調査の質問調査では、「授業の内容はよくわかる」、「授業で学習したことを生活で活用しようとする」、「問題が分からないときあきらめずに考える」などの項目で改善が見られた。

一方で「授業以外の1日当たりの勉強時間」、「学習した内容について、わかった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」などの項目は改善されておらず、総務省統計局の「家計調査結果」でも、補習(学習塾など)に対する世帯支出額が政令市の中で最下位となっていた。

これらのことから、本市の子ども達は、授業以外での学習の機会が比較的少なく、学習内容の定着が不十分であったことが分かる。

④目指す成果 - 市民にとって何がどう変わるのか(サービスの質や価値、市民の実感) -

AI型学習アプリの導入により、一人ひとりに合わせた問題が出題されることで、学習の「飽き」や「つまずき」が解消される。また、教師や塾講師等に頼らずに、子ども達が望むタイミングで学ぶ機会を得ることによって、学習内容の定着につながる。

⑤令和8年度 of 取組内容(四半期間隔)

(1)「北九州市AI型学習アプリ活用アクションプラン」の作成・普及と、学校への伴走型支援の実施、アプリ活用の指針となるアクションプランを全校に普及させるとともに、教育委員会事務局による段階的な伴走支援(訪問・電話連絡)を実施する。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
・「北九州市AI型学習アプリ活用アクションプラン」の策定および第1回訪問の実施	・各学校によるAI型学習アプリの運用開始(夏休み前)	・第2回訪問の実施	・第3回訪問の実施と学習ログの分析と次年度の取り組み内容の検討

(2)全国学力・学習状況調査の結果分析とAI型学習アプリの活用効果検証

全国学力・学習状況調査の結果とアプリから得られる学習ログを相関分析し、児童生徒の学力定着に向けた効果的な手立てを検証する。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
・令和8年度調査の実施と問題分析	・令和8年度調査の結果分析	・AI型学習アプリの学習ログと各種調査の相関分析	・分析結果を学校にフィードバック ・次年度の取り組み内容の検討

課題A (3) 子ども読書活動の推進【政策分野：教育環境（ソフト）】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス【インパクト：・低】【緊急度：・低】

②課題の内容

近年、子どもたちの読書離れが進行している。「読書が好き」な児童生徒の割合は全国平均を上回っているものの、読書にあてている時間は少なく、図書館や学校図書館の利活用も活発とは言えない。学校内の生活導線上で、本に触れる機会を増やしたり、図書館が「行きたくなる」「滞在したくなる」存在となるなど、子どもたちが自然に読書活動ができるような機会の創出が求められている。

③課題の背景や現状

デジタルの生活様式が広がり、子どもはスマートフォンやSNS、ショート動画を中心とした情報取得が主流となっている。「タイパ(タイムパフォーマンス)」を重視する傾向も強く、読書のように時間をかけて活字を読む機会は減少し、読書離れが進行している。

一方で、AIが発達する中で、思考力や読解力、想像力を育む手段としての読書の重要性が改めて認識されている。本と出会い、学びを深める場である図書館や学校図書館では、子どもたちの読書活動の推進のため、従来の機能にとどまらない新たな取り組みが求められている。

④目指す成果 - 市民にとって何がどう変わるのか(サービスの質や価値、市民の実感) -

- ・学校内の生活導線上で日常的に読書に親しみ、読書の楽しさを感じられる環境を整備する。
- ・幅広い子ども世代が自然に集い、安心して過ごせる「第3の居場所」としての図書館の確立を目指し、子どもたちが安心して読書を楽しめる場所にする。
- ・子ども世代が本に触れる回数が増え、読書時間の増加及び読書習慣の定着、さらには、学び機会の拡充、探究・調べ学習への関心向上などを図る。

⑤令和8年度 of 取組内容(四半期間隔)

(1)学校における読書活動の推進

「学校全体がまるごと図書館」と捉え、児童、生徒が学校生活において、自然に本と出会える環境づくりを全校で行うとともに、10分間読書や読書コーナー設置の推進など、本に親しむ取組を強化・継続していく。令和8年度は、各学校から本に出会える環境づくりの提案も求め、蔵書や備品整備等の支援を行い、学校が主体となった子どもの読書活動を支援する。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
・10分間読書の推進、読書コーナー設置等 ・環境づくり提案受付	・10分間読書の推進、読書コーナー設置等 ・環境づくり提案の検討・調整	・10分間読書の推進、読書コーナー設置等 (蔵書の充実、書架・閲覧スペースの整備、児童生徒自身で書籍を紹介 等)	・10分間読書の推進、読書コーナー設置等

(2)子ども図書館における体験型イベントの展開

発達段階×地域連携で「学び・やすらぎ・楽しむ」を最大化。「エンタメ要素」を最大限に盛り込んだ体験型イベントを、小、中、高、あらゆる世代に展開させ、子ども図書館を「子ども・多世代エンターテインメント拠点」として機能させる。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
・事業立案・計画、広報・PR実施	・中高生向け探究型学習講座の実施 ・小中学生向けイベントの実施	・中高生向け探究型学習講座の成果発表会	

課題B (1) 地域クラブ活動の推進【政策分野：教育環境（ソフト・ハード）】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス【インパクト：高】【緊急度：高】

②課題の内容

北九州市では、国の施策動向も踏まえて、子ども達が学校部活動と合わせて、スポーツ・文化芸術など様々な活動を経験できる「地域クラブ活動」を推進している。

現在、約120の地域クラブが認定され、それぞれに特色ある活動を行っているが、今後も、生徒・保護者や地域と共通理解を持ちつつ、市内に地域クラブ活動を一層広げていくため、個々の取組の更なる進化が必要である。

③課題の背景や現状

北九州市は、文部科学省のガイドラインに基づき、令和7年5月に「北九州市部活動地域展開推進計画」を策定した。

本計画に基づき、休日については、認定を受けた地域クラブが、教育委員会・学校と連携して、スポーツ・文化芸術など様々な活動の場を提供することで、生徒は自らの興味・関心に応じてクラブを選び、「地域とのつながり」の中で、多様な活動を経験していく。

(学校部活動の休養日)

- ・令和7年9月からは、第1土曜日と翌日曜日
- ・令和8年9月からは、第1・第3土曜日と翌日曜日
- ・令和9年9月からは、全ての休日

④目指す成果 - 市民にとって何がどう変わるのか(サービスの質や価値、市民の実感) -

地域と教育委員会・学校との共創により、多様なスポーツ・文化芸術活動に親しむことのできる環境が整備され、生徒1人1人が自分の可能性を信じて自己実現につながるチャレンジができるようになる。

⑤令和8年度 of 取組内容(四半期間隔)

(1) 地域クラブ活動の推進に向けた取組の進化

教育委員会事務局内にPTを設置し、横断的に必要な取組の検討・実行を進める。

地域クラブ活動の現状を適切に把握するとともに、生徒・保護者をはじめとして、学校、スポーツ・文化芸術活動、地域コミュニティ、経済界等各方面の関係者から意見を得る機会を拡充する。

以上を通じ、地域クラブ活動の推進について幅広く理解を得るとともに、関係局とも連携を取りながら、地域クラブ活動を一層広げていく上での課題を整理し、個々の取組をアップデートする。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
<ul style="list-style-type: none"> ・局内PTの開催 ・有識者会議の開催 ・現状の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・局内PTの開催 ・有識者会議の開催 ・取組のアップデートの検討・実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・局内PTの開催 ・取組のアップデートの検討・実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・局内PTの開催 ・取組のアップデートの検討・実施

4 課題

課題B（2）持続的な給食提供体制のあり方【政策分野：教育体制（ハード・ソフト）】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス 【インパクト:高】【緊急度:低】

②課題の内容

- ・調理現場が126か所(全小学校)に分散しており、必要な調理員の確保や多数の設備の維持管理が課題となっている。
- ・1校5年契約で、毎年平均25校の契約更新を行う必要があり、契約締結にかかる事務負担に加え、履行管理に関する負担が生じている。
- ・安全安心でおいしい、質を確保した給食を持続的に提供するためには、児童生徒の減少、労働人口の減少などの状況変化を踏まえた、中・長期的な視点で提供体制の見直しを検討する必要がある。

③課題の背景や現状

児童生徒数の減少(25年後には、現在より約2万人減少見込)による小規模校の増加や、北九州市も含めた全国的な労働人口減少(給食調理業務の担い手不足)が見込まれる中、給食提供体制を含めた持続可能な学校運営の新たな形が求められている。

④目指す成果 - 市民にとって何がどう変わるのか(サービスの質や価値、市民の実感) -

今後の児童生徒数や労働人口の減少、調理・配送技術の進歩等に対応した給食提供体制にアップデートすることで、子どもたちが持続的、継続的に「安全安心でおいしい給食」を食べることができる。

⑤令和8年度 of 取組内容(四半期間隔)

(1)現状分析を踏まえた給食提供体制の検討

- ・北九州市の給食提供の現状(情報)を把握するとともに、他自治体の提供体制を調査する。
- ・現状分析を踏まえ、今後の給食提供体制について様々な方策を検討、論点を整理する。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
現状分析 (現状把握、他都市視察)	→	現状分析を踏まえた 今後の在り方の整理	→

課題C (1) 新たな時代の教育デザイン【政策分野：局全体】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス【インパクト:高】【緊急度:高】

②課題の内容

社会環境が劇的に変化し、価値観やライフスタイルの多様化が進む中、新たな学校のカたちを目指し、「新たな時代の教育デザイン」を進めるが、この「新しい学校」の教育効果(メリット)を最大限活用するとともに、北九州市の特色も踏まえた未来志向の教育モデルを創出していく必要がある。

③課題の背景や現状

教育委員会では、高い学習効果、時代の要請に応じた学びを実現するため、「新たな時代の教育デザイン」として、「小中一貫教育」により得られる教育効果(ソフト)と、これまでにない機能や環境等を有した「新しい学校」(ハード)を併せ持つ、小中一貫校整備の検討を進めている。

また、ソフト面については、個別最適な学びを進める中で、学力のみならず、児童生徒の多様性を尊重し、時代の流れや地域の特性等を踏まえて、生徒1人1人の将来にわたる多様なキャリアを形成できるよう、卒業後のキャリアにかかわる関係者(高校・高専・大学・産業界など)とも連携して、新たな教育モデルを検討することが求められる。

④目指す成果 - 市民にとって何がどう変わるのか(サービスの質や価値、市民の実感) -

- ・「社会課題の解決」と「質の高い教育環境」の同時実現
- ・「こどもまんなか」で「正解のない時代に生きる力」の育成
- ・北九州市の地域特性を生かし、将来の多様なキャリアを展望できる教育モデルの創出

⑤令和8年度の実行内容(四半期間隔)

(1)市立小中学校における実践例や他都市事例の収集・分析を行う。

また、学校・保護者・地域はもとより、高校・高専・大学・産業界などの関係者とも幅広く意見交換を行うことで、小中一貫校の整備及び新たな教育モデルについて、方向性を具体化する。

第1四半期(4~6月)	第2四半期(7~9月)	第3四半期(10~12月)	第4四半期(1~3月)
<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みの発表 ・検討スケジュール整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民・関係者への説明、意見聴取 ・事例の収集・分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民・関係者への説明、意見聴取 ・有識者への意見聴取 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫校の整備・教育モデルの方向性の具体化